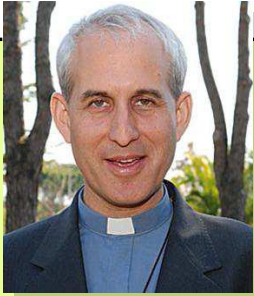


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.68 - 2014年8月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友

人の皆さん、
全世界で、私たちの
愛する父ドン・ボスコ
の生誕200周年の祝
いが始まりました。私

たちの宣教の心のアンテナは、研ぎ澄まされて
ベッキの方に向いています。その村で生まれた
一人の子のことを思いめぐらします：小さな
ジョヴァンニのことを。

すべての子の場合もそうであるように、この
子が誕生して以来、「外へと向かう動き」が生
まれています。この子も、極度の貧しさと家庭
内の緊張のため、ベッキ村から「外へ」行かな
ければなりません。夢を実現するために
「彼は外へ出かけ」、新しい家族、宣教する家
族の父となりました。ベッキから……オースト
ラリアに至るまで！

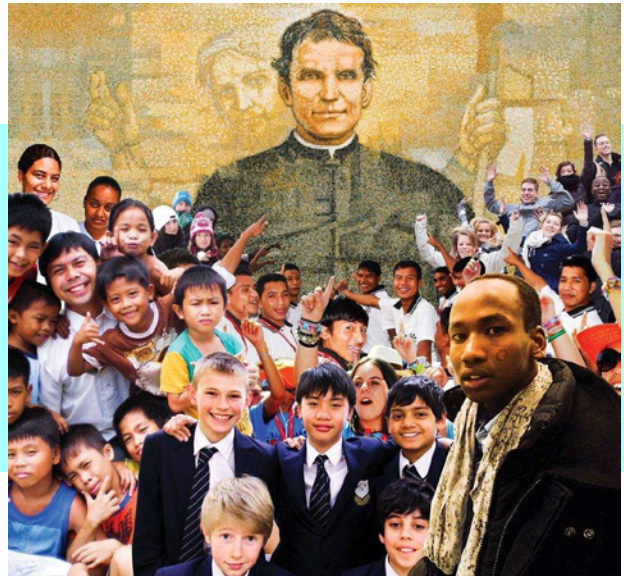
この生誕200周年の祝いは、私たちの宣教
の根本に立ち帰ることも意味します。

そこで私たちはこの聖年を、サレジオの宣教
の心をもって生きたいと思います。2015年の
8月15日に、祝いの年が荘厳に閉幕するとき、
ドン・ボスコの子らが「閉じこもり、自分の安全
地帯にしがみつくと気楽さゆえに病んだ」状態
ではなく、「出て行ったことで事故に遭い、傷を
負い、汚れ」ていますように（フランシスコ教
皇、『福音の喜び』49参照）。「出向いて行きま
しょう。すべての人にイエス・キリストのいのち
を差し出すために出向いて行きましょう！」これ
こそ、私たちが愛するジョヴァンニ・ボスコに
贈ることのできる、最良の誕生プレゼントなの
です！

良いドン・ボスコ生誕200周年を！

J. Basanes

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父



ドン・ボスコの宣教の心の叫び： “Da mihi animas!”

ドン・ボスコの宣教に向かう情熱をより詳しく見てみると、それ
はイエスを知らせようとする宣教の熱意の究極的な実り、最も
生き生きとした表れであることがわかります。この使徒的情熱こそ、ドン・
ボスコのあらゆる取り組みを支えるダイナミズムです。実際、ドン・ボスコ
の若者への奉仕職を詳しく見てみると、福音を告げ知らせたいという情
熱がそこに深く浸透していることに、すぐ気づくでしょう：1854年、トリ
ノでのコレラ発生の際、ドン・ボスコは最もしっかりした少年たちに、オラ
トリオの安全な敷地の外に目を向け、コレラに倒れた人々を助けに出か
けようと呼びかけました。教皇がイギリスに信仰の光をもたらすのをドメ
ニコ・サヴィオが夢-幻に見たことも、オラトリオに行き渡っていた宣教の
精神を物語っています。ヴィガノ神父は強調しています。「ドン・ボスコの
オラトリオは、小教区を持たない若者たちのため、宣教の視点から考え
出されました。」この宣教の熱意-Da mihi animasに総合されるもの-は
、ドン・ボスコのすべての活動に力を与えるダイナミズムだったのです。

『ドン・ボスコのサレジオ会員の宣教への養成』より



「世界中の多くの若者のため、 ドン・ボスコの夢の実現を助けたい」



私は6人兄弟の家庭に生まれました。男の子2人、女の子4人の兄弟の中で、私は5番目でした。幼児洗礼は受けましたが、私が育った環境はあまりカトリック的ではありませんでした。私が初聖体を受けたのは、すでに17歳のときでした。それまで、修道生活や司祭職について何も知りませんでした。しかし、初めてドン・ボスコのオラトリオに行ったとき、私たち若者と交わるサレジオ会員に出会いました。ヨーロッパ人の司祭たちが貧しく汚い子どもたちと遊んだり、冗談を言ったり、飛び跳ねたり、食事さえ一緒にしているのを見て、私は衝撃を受けました。それは不思議に見えるとともに、可笑しくもありました。初めは、この外国人たちがなぜこのようなことをしているのか、理解できませんでした。

でも、オラトリオに入ったばかりだったので、近づいて尋ねる勇氣もありませんでした。少しずつ、彼らのとてもシンプルな生き方や若者たちを温かく迎える姿勢が、私にとって力強いインスピレーション、魅力になっていきました。まもなく、彼らの仲間になりたいと心から願うようになりました。私のサレジオ会宣教師の召命はこのようにして生まれました。どこでも主が遣わすことをお望みになるところで、主に仕えるために自分をささげたいという望みを、若いサレジオ会員であった私は表しました。総長が私の願書を受け取ってくださったことを神に感謝します。

ローマとトリノで行われた新宣教師研修コースに参加できたことをとても感謝しています。宣教のダイナミズム、教会、ドン・ボスコとそのカリスマをよりよく理解するための素晴らしい機会でした。その体験は、私の召命と、生涯若者と共にいるという私の決意を本当に強めてくれました。コース受講中、仲間の新宣教師たちと共に生活し、分かち合いました。また、長年の宣教経験をもつ多くのサレジオ会宣教師と出会いました。彼らが分かち合ってくれた経験からたくさんのことを学びました。このコースのおかげで、言葉や文化にまつわる宣教生活の挑戦について知識を得ることができ、それに立ち向かう心の準備ができていました。事前の注意喚起は、事前の備えにつながります！

私が宣教師になったことは、管区の召ル人サレジオ会員の中で最初の2人のつかることもあります。私たちがまだマダガスカルを後にする決意をしたのか、理の準管区は、ほかの管区からたくさんの方にとって、世界のほかのところで多の実現に貢献する時です。

私はここザンビアで、宣教師として、サレジオ会員と共に働くことができ、とてもからの贈りものとして頂いています。とてもリーなザンビアの人々と共にいられることや文化を知るために、まだ一生懸命勉強しなければなりません、ザンビアの人々の中で生活することは私にとって難しくはありません。

若いサレジオ会員の皆さんに思い起こしてもらいたいのは、海外宣教師になるよう神に呼ばれていると感じるなら、応えるのを恐れないうことです。何も心配しないでください。神様は私たちを支えようと、いつもそこにいてくださいます！

マダガスカル出身、ザンビアの宣教師
フランソワ・ドボール・ラコトマララ神学生



命促進の裏りです。しかし、マダガスカル宣教師の一人として、人々の疑問にぶ教師を必要としているのに、なぜマダ解できない人もいます。しかし、私たちがものを受けたのです！今はマダガスクの若者たちのため、ドン・ボスコの夢

ンビアやそのほかの国々から来たサレ幸せで感謝しています。すべてを神様も親切で人を温かく迎える、フレンドは、神様の祝福です。ザンビアの言葉



サレジオ会の宣教の意向

オーストラリア-太平洋管区の福音宣教のために

オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、サモアのサレジオ会員が、日々、神を体験し、より世俗化したオーストラリアにおいても、太平洋の若い島人と共にあっても、喜びと熱意をもって、生きたあかしと告げ知らせることを通して、信仰の賜物を伝え、分かち合うことができますように。

オーストラリア-太平洋管区は、99名の会員が4か国で生活し、働いています。内訳は、有期誓願者12名（修道士3名、司祭候補者9名）、修道士12名、司祭75名、修練者2名、修練前の志願者6名（2013年には2名）。14のサレジオ会共同体が、8つの学校、10の小教区・コースセンターで、教育・司牧の使命に携わっています。全体として、少なくとも10の異なる民族出身の会員が、素晴らしい、多様な文化的モザイクを形づくっています。

